

1. 略歴

- 1986年3月 東京大学文学部哲学専修課程学士・文学士
1989年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻修士・文学修士
1990年10月 東京大学教養学部助手（～1993年3月）
1993年4月 神戸大学文学部助教授（～2006年3月）
2006年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

哲学、特に西欧近世哲学と現代フランス哲学

b 研究課題

<内在性の哲学>の体系化の作業として次の三つが現在の研究課題である。

- 1/西洋形而上学の形成史の探求とそれを背景とした<存在の一義性>の哲学の系譜学の作業。
- 2/現代フランスにおける差異哲学の検討。
- 3/非人間主義（inhumanisme）の哲学の展開。

c 概要と自己評価

上記三つの研究課題をより具体的には次のように遂行している。

1/ドゥンス・スコトゥスからスピノザに至る中世後期から近世にかけての<存在の一義性>の系譜学の意義を、とりわけスピノザ哲学に焦点をあてて解明すること。

2/現代における<内在性の哲学>の範型＝差異哲学としてのドゥルーズ哲学を解凍し、その意義を現代分析的形而上学や日本語の哲学と突き合わせながら展開すること。

3/限定された存在としての人間とは異なる他のありようへと変容していくことの可能性を肯定する思考としての非人間主義の哲学を、具体的な主題において展開すること。

この二年間においては、1に関して、とりわけスピノザ哲学の特異な位置づけを、ライブニッツ哲学との関連、ならびにその受容史をもとに解明する作業を行い、単著『スピノザライブニッツ問題』として刊行する準備を集中的に進めてきた。2017年初頭の刊行に向けての脱稿を目指している。さらに、岩波書店から刊行予定の『スピノザ全集』編集委員として、全集刊行の準備を進め、幾つかの著作の翻訳を終え、来年度の刊行に向けて、現在、最終的な調整を行っている段階である。また、2に関しドゥルーズ前期哲学を主題とする単著『ドゥルーズ哲学の生成と構造』（仮題）として刊行する準備を進めてきた。こちらに関しても遠くない時期に公刊予定である。脱稿が遅れていることには不満が残るが、これまでの研究の集大成となる大部の著作の刊行を期したい。

d 主要業績

(1) 論文

鈴木泉、「内在と内在的因果性——アンリのスピノザ主義に関する覚書——」、『論集』第34号、東京大学大学院人文社会系研究科哲学研究室、33-55頁、2016.3

(2) 学会発表

国内、鈴木泉、「個体と汎神論——アンリにおけるスピノザライブニッツ問題に向けて」日本ミシェル・アンリ学会第6回研究大会、シンポジウム「アンリとスピノザ」提題、成城大学、2014.6.15

国内、鈴木泉、「広大無辺性概念をめぐって——「形而上学的思想」の位置づけ——」スピノザ協会総会講演、明治学院大学、2015.6.13

国内、「メルロ＝ポンティと大合理主義に関する覚書」メルロ＝ポンティ・サークル、シンポジウム「メルロ＝ポンティと17世紀」提題、駿河台大学、2015.9.26

国内、鈴木泉、「自己決定の自由と自発性/創造の事由——大西克智著『意志と自由』をめぐって——」哲学会ワークショップ「自由の形而上学——大西克智著『意志と自由』をめぐって」、東京大学、2015.10.31

国内、鈴木泉、「ドゥルーズ哲学を要約するかもしれない二、三の定式について——ドゥルーズは本当のところ哲学に何を寄与したのか——」、ドゥルーズ没後20周年シンポジウム「反時代的な未来のために」講演、早稲田大学、2015.11.23

国内、鈴木泉、「テロリズムと戦争機械——「パリ同時多発テロ」を機会に——」、早稲田大学総合人文科学研究センター研究部門「現代日本における『信頼社会』再構築のための総合的研究」主催シンポジウム「テロリズムを考える——デリダ、ドゥルーズ、レヴィナスの哲学から——」、早稲田大学文学部、2016.2.2

国際、鈴木泉、「ドゥルーズと非人間主義の哲学」、全南大学校（韓国・光州）、BK21Plus The Philosophical Education Project towards Transverse Thinking（BK21Plus 横断的思考に向けての哲学教育プロジェクト）による招聘講演、2016.2.23

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義等

非常勤講師、東京芸術大学、「哲学」、2014.4～2015.3

(2) 学会

日本哲学会、評議員、理事、2013.5～2015.4

日仏哲学会、理事、2014.4～2016.3

スピノザ協会、理事、2014.4～2016.3

日本ライブニッツ協会、理事、2014.4～2016.3